

風土記の丘の花だより⁹⁸

今、そしてこれから見られる植物(2021年8月7日)

前回紹介したウバユリでしたが、花期が短く、見に行ったら萎れていて、がっかりされた方もおられたのではないのでしょうか。谷山家の庭では10日ほど前からカノコユリが咲いています。もしすでに枯れてしまっても、白いタカサゴユリはあちらこちらにたくさん咲いていますので、それを観賞してやってください。



メハジキが咲きました。なんと小さなメハジキでしょうか。だいたいこの草は人の腰の高さ以上に伸びるものですが、万葉植物園でも、小早川家住宅の庭でも、どちらもミニサイズです。万葉植物園では紅色、小早川では白色の花が見られます。生育環境がよくないのでしょうか、年々小さくなっていますね。



日当たりの良い乾いた所にクルマバザクロソウという聞き慣れない名前の小さな花が咲いています。ただ、「咲いています」と言うものの、しゃがみ込んでじっくり観察しないと分からないくらいの小さな花です。茎に対して葉が輪生しているので「車葉」です。ではザクロとは何でしょう。どこかがザクロに似ているのでしょうか。



これだけ咲いているのに紹介しないわけにはいけませんね、このユリは、はじめに名前が出たタカサゴユリです。台湾原産の外来植物です。一般的なユリは球根で殖え、種子からだとは開花までに何年もかかりますが、このユリは種子から半年ほどで開花すると言われています。それであちらこちらでふえているのです。特に高速道路ののり面などでは群生が見られます。



ヤブランの紫色の花がきれいに咲いています。この花は同じ仲間のコヤブランです。一株ずつ生えるヤブランと異なり、地下に茎を伸ばしながら成長するので群生します。丈も低く、花の色は白に近い薄紫色です。「なるほど、よく見ればヤブランとちょっと違うなあ」と気づいていただければ嬉しいです。あと少しで100号です。我ながらよく続いたものです。松下